

Weekly Report 2023-2024



創立 1969年4月14日
承認 1969年4月23日
チャーターナイト 1969年11月9日
発行 IT・広報委員会

世界に希望を生み出そう

会長：磯崎裕騎 / 幹事：吉岡哲哉 / 副会長：村上義憲 / 会長エレクト：江島繁夫 / 副幹事：岩本達也 / S.A.A: 堀井実

今週のプログラム		第2579回	12月1日
(昼例会) 会員卓話			
担当者	プログラム委員会		例会場 JRホテルクレメント高松

先週のプログラム		第2578回	11月24日
ロータリー財団フォーラム			
担当者	ロータリー財団委員会		例会場 JRホテルクレメント高松



磯崎会長挨拶

・ こんにちは。今日はブラックフライデーです。何か大きな買い物をした方はいますか？

今月はロータリー財団月間であり、後ほど村上委員長からお話がありますのでどうぞよろしくお願いします。

また11月はみんなで医療を考える月間でもあります。

今日はその関連ですが現在の薬事情について少しお話しします。私のところでも痛み止めや抗生物質などを注文取り寄せしておりますがほぼ全てが出荷調整になっています。つまり通常納品が不可能と言うことです。こんなことは日本で近代医療始まって以来初めてのことで、これにはいくつか理由があり新聞に載っているレベルの話では後発薬製造メーカーの不祥事や事故により生産量が減ったというのがあります。

みなさんが実感しているのはジェネリック医薬品でしょう。医療費削減目的でジェネリックと呼ばれる後発薬に誘導されたことから、その反動で通常の薬剤の価格まで下げられて採算ベースを割り込み製造メーカーが撤退したこともあります。

その他にも海外からの輸入に多く頼る構造があり、特に抗生物質の大半を占めるβラクタム系の原材料はほぼ100%が中国か

らで日本国内生産は2000年に最後の工場が閉鎖され行われていません。薬についても安全保障の問題とは切り離せなくなっています。

海外製品については日本が買い負けていることもあります。買い負けの前に内外価格差から海外メーカーが日本に注目しなくなってジャパンパッシングが起こっていることもあります。知人のファイザー社員から聞いた話では既に数年前に四国支社は閉鎖、本社さえも日本から撤退しようかと言う話でしたが例のコロナの問題でかろうじて関係が継続されています。

風邪やインフルエンザはウィルス疾患で抗生物質は関係ありませんので、処方されそうになったら特段のリスクがない限りお断りしてください。

それよりも、体調管理には十分にお気をつけて薬代を払うよりも美味しく健康的な食事にお金を出すのがよいと思います。

本日はよろしくお願いします。

吉岡幹事報告

・ 回覧：東かがわRC創立50周年式典のお礼状

12月1日 今日は何の日	今日生まれの有名人		
デジタル放送の日/映画の日/鉄の記念日	1962年 林家正蔵	1944年 梨元勝	
1949年 お年玉付き年賀葉書の発行	1947年 根津甚八	1933年 藤子・F・不二雄	
1952年 国立近代美術館開館	1945年 富司純子	1929年 奈良岡朋子	
誕生花	赤のラン、花言葉は“旺盛な探求心”		
誕生石	トルコ石(turquoise)、宝石言葉は“成功”		

<p>どこで会っても やあと言おうよ 見つけた時にゃ おいと呼ぼうよ 遠いときには 手を振り合おうよ それでこそ ローローロータリー</p>
--



ニコニコBOX	
島谷さん、入谷さん、岩本さん、ありがとうございました。 吉岡	
合計 1 件	
本日の合計	3,000 円
2023-2024 年度累計	407,500 円

ビジター
高松RC 向井 幸治 様

メイクアップ
11月17日 2720 Japan O.K. ロータリークラブ 大島
11月19日 東かがわRC 島谷 入谷

出席報告		出席委員長：低田陽介	
会員数 /	42 名	出席規準数 /	39 名
出席者数 /	18 名	欠席者数 /	21 名
出席率 /	46.15%	ビジター /	1 名
最終出席率 /11月10日	57.50%	→	67.50%


例会スナップ



IT・広報委員会よりお願い
週報に掲載させていただく記事・原稿を募集させて頂きたく会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。
題目は自由として、できるだけ多くの皆様に近況報告も含め各業界分野の話、身近な随筆、提言等どんなお話でも結構ですので投稿していただきます様、宜しくお願い申し上げます。

ロータリー特別月間（12月）
疾病予防と治療月間
(Disease Prevention and Treatment Month)
2014年10月RI理事会は、12月を重点分野：「疾病予防と治療月間」とした。地域社会の医療従事者の能力向上、伝染病の伝播を食い止め、非伝染病とそれによる合併症を減らすための、疾病予防プログラム、地域社会の医療インフラの改善、疾病の蔓延を防止することを目的とした、地域住民への教育と地域動員、疾病またはケガによって引き起こされる身体障害の予防、疾病予防と治療に関連した仕事に従事することを旨とする専門職業人のための奨学金支援を強調する月間である。

12月誕生日の樹
3日 浅原尚彦 会員 イイギリ(飯桐)
9日 島谷隆 会員 セイヨウワナンテン 'レインボー'
23日 木内泰宏 会員 トウジバイ(冬至梅)



記念樹 - 記念日と誕生日365日の+1の樹 - 財団法人経済調査会発行より

ポール・ハリスの言葉 ロータリー情報委員会 加藤和理

14. 貧乏というつらい答
There is no whip like the whip of destitution.
貧乏ほどつらい答はない。
これは今述べた“Chicago’s zero hour”の中の大衆の困窮状況を語ったものであるが、はしなくもこれを読んで私は、ずっと昔幼い頃祖母が口癖の様に言っていた「四百四病のある中で、貧よりつらいものはない」、という言葉を思い出した。古今東西庶民の赤裸々な感情は同じである。当時のシカゴでは牢につながれることなど大歓迎、出獄することを考えるのではなく、如何にして入獄しようかと考えたという。だから監獄は扉が閉じきれない程人が温れたと書かれている。
然し、経済的に恵まれたエリートの集まりである今日のロータリーでは、歴史的事実としてこういう社会を振り返ってみることはあっても、腹にこたえてその血の出る様な切実さは分るまい。だからロータリー談義も空理空論のから廻りになったり、また一方では奉仕と言えば金銭の寄附によりかかり、クラブではゴルフ、宴会、旅行に熱をあげるということになる。貧乏という病を追放することは、まぎれもなく人類の悲願である。戦争でさえも貧乏と無関係ではない。貧乏はある意味で諸悪の根源だと言ってもよい。然しそれなら貧乏の反対の極にある裕福は諸善、諸徳の根源だろうか。否、明らかに否であろう。裕福もまた悪の根源たり得るのである。
私は決して経済的な豊かさを憎むものではない。率直に言って私もまたそれを望む。ただ問題は、そういう物財を超越した所にある「人生の生き方」である。つきつめて言えば、貧しいか豊かか、ということさえも「生き方」それ自身にかかっているのである。奉仕、奉仕というけれども、奉仕ということでも結局はその人が如何に生きるか、という「生き方」自体の中にある問題であって、かっこ良く表に現れた「勤労奉仕」みたいなものではない、というのが私の信条なのだがいかなものだろう。

次週のプログラム	第 2580 回	12月 8 日
客話：疾病予防と治療月間 高松市保健所 感染症対策室 吉村様		
担当者	プログラム委員会	例会場 JRホテルクレメント高松